

狭窄部上流・多田地区の浸水被害を解消するために、あらゆる対策を検討します。

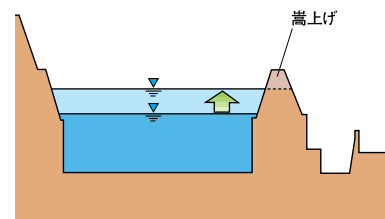
狭窄部上流の多田地区では、近年においても度々浸水被害が発生しています。一方、周辺では宅地化が進んでおり、それらの地域の特性を考えると早急に浸水被害の軽減を図る必要があります。そこで狭窄部上流の浸水被害を軽減するために考えられるあらゆる対策案について、各々の効果、事業費、事業工程、周辺自然環境および社会環境に及ぼす影響を検討し、本整備計画において実施可能な対策案を選定します。また、上記ハードによる対策と同時にソフトによる対策も推進します。ここで、対象とする洪水は既往最大規模の洪水である昭和35年8月洪水とします。

●現在の施設を活用する方法●

貯留施設(調節池)

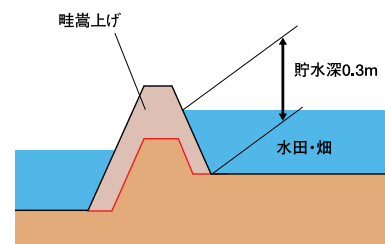
猪名川上流部の調節池などを嵩上げすることで洪水調節容量を増強する方法です。

調節池



田畑の貯留効果

猪名川上流部で利用されている支川沿川の水田の畦を嵩上げすることで、貯留効果を期待する方法です。



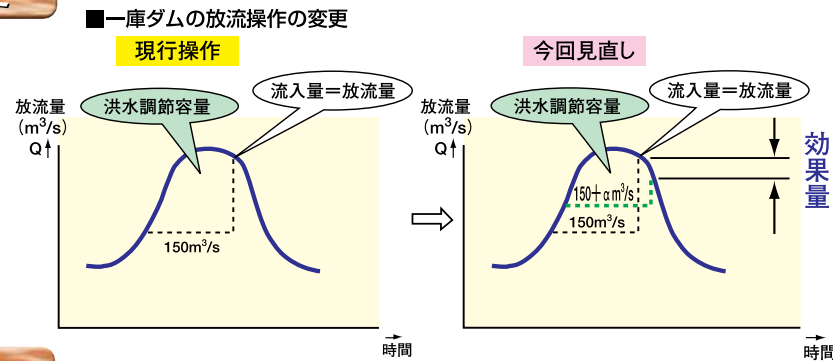
森林の保水機能

日本学術会議(答申)(農林水産大臣の諮問に対する答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」(平成13年11月))において、「森林は中小洪水においては洪水緩和機能を発揮するが、大洪水においては顕著な効果は期待できない」との見解が示されています。

●既設ダム(一庫ダム)を有効活用する方法●

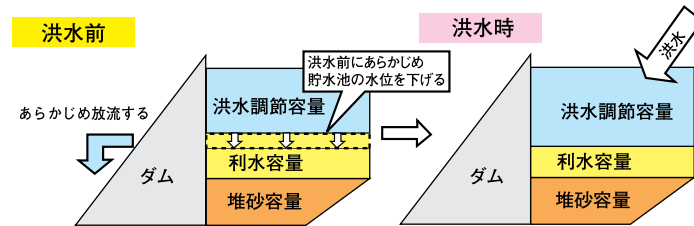
放流操作の変更

一庫ダムの放流操作を変更することで貯水池を有効活用する方法です。(イメージ)



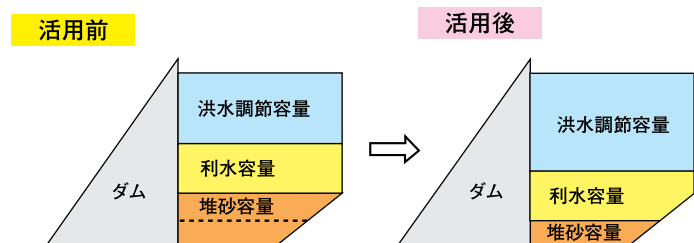
予備放流

洪水が発生すると予測される場合にあらかじめ、貯水池の水を下流に放流し水位を下げることで洪水調節機能を増大させる方法です。



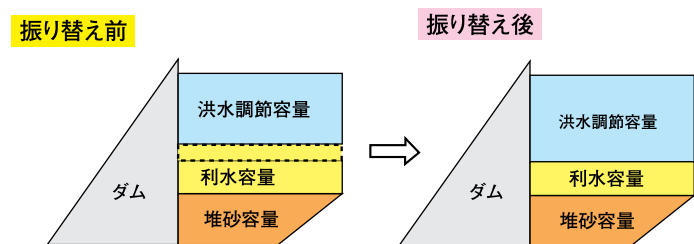
堆砂容量の有効活用

一庫ダムの堆砂容量の一部を浚渫等により確保し、洪水調節容量を増加させる方法です。



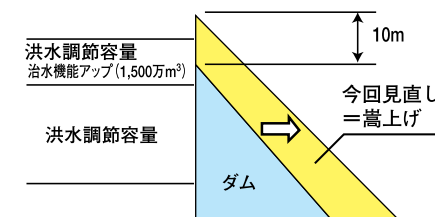
利水容量の振り替え

一庫ダムの利水容量の一部を洪水調節容量に振り替える方法です。そのためには、
●水需要の抑制により、一庫ダムにかかる利水容量を減らし、洪水調節容量を増強する方法です。
●一庫ダムの利水容量の一部を他のダムや地下貯留施設などに振り替えて、洪水調節容量を増強する方法です。



一庫ダムの嵩上げ

ダムの嵩上げで洪水調節効果を増加させる方法です。周辺の地形・地質条件や上流域の家屋の水没により、嵩上げ高さは約10mが限界です。



●新たな施設で対応する方法●

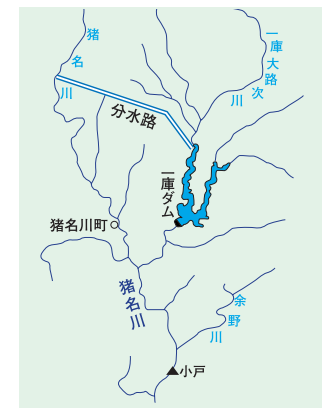
バイパストンネルの設置

狭窄部上流にバイパストンネルを設置し、トンネル呑口にゲートを設置することにより、流量を調節して放流する方法です。



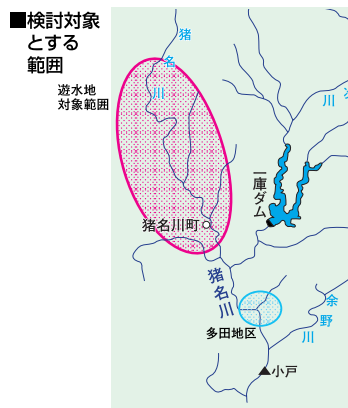
分水路(導水トンネル)の設置

分水路(導水トンネル)により、猪名川本川から一庫ダムへ本川流量の一部を導水することにより多田地区上流の本川流量を低減する方法です。



遊水地の設置

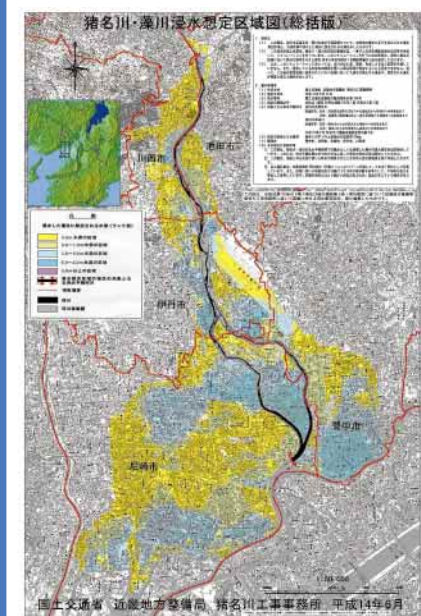
従来より浸水域であった箇所に対して、設けるなど計画的にできるだけ水を貯留して貯留機能を向上させる方法です。



●氾濫原対策(土地誘導などのソフト対策)●

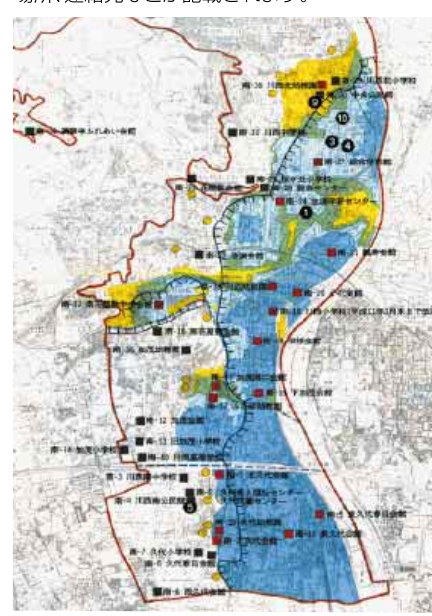
浸水想定区域図

流域住民への周知のため、浸水想定区域を公表しています。



洪水ハザードマップ

ハザードマップ(非常用の地図)を作成、公表。この図には、浸水想定、避難すべき地区と避難場所、連絡先などが記載されます。



施設対応、情報伝達

氾濫原対策として、猪名川町や伊丹市例です。

